

BLUE BLOOD'S

vol.29



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

BLUE BLOOD'S vol.29



こんにちは、BLUE BLOODです。

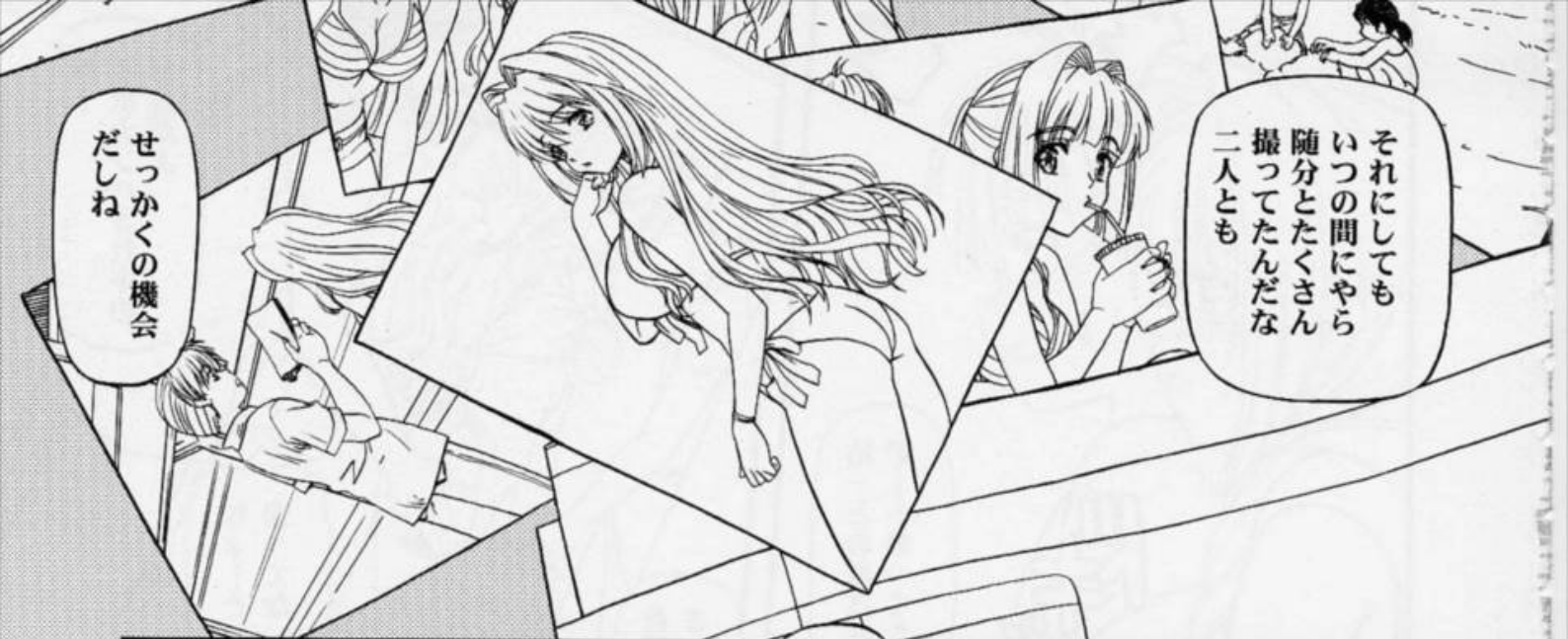
また秋子さん本です。

今回は前回海水浴へ行った後のお話です。

「日焼け跡ってエロいよね」という一心で描きました。

前回の本を読んでない方も、話的には知らなくても問題ないと思います。

大事なものは日焼け跡って事ですから。



せっかくの機会
だしね

それにしても
いつの間にやら
随分とたくさん
撮ってたんだな
二人とも



こういうのは多に
越した事ないですよ

それにいい話の
ネタにもなるし



どれどれ？

相沢君ってば
自分で言ってるそばから…



まあ確かに「この写真は」って
盛り上が……ん？
この写真は？



……ん？
どしたの？

いや…なんでも…

ええ…なんでもないわ
私達を待ってる間に
そんな事があったのね

げんげん

香里そういうの
多いんだよ
駅前とか遊びに行くと
絶対声かけられるもん

そうか…まあ
分からなくもないが

香里ちゃん
美人だものね

秋子さんに言われちゃ
立つ瀬がないですよ
迷惑度合いで言ったら
よほど秋子さんの方が…

迷惑というか…
困ったのは確か
断るのって結構
気を使うでしょ？

いえ
私はああいうのに
はつきり言ってるの
得意ですから♪

…残酷なまでに
得意だよ
北川君に対して
とか

…さすがに
ナンパしてた連中の
心の傷がちょっと
心配になるな

どういう意味よ

だって…なあ？

北川君くらい
感覚鈍くないと…ねえ



名雪…あんたも
大概ひどい…

あ
ちよつと
ごめんなさい

今頃慌てても自業自得でしょ
だから毎日少しずつでも
やっておきなさいとあれほど…

そもそも自分でやらなきゃ
意味ないでしょ宿題なんて

もう…まずは自分で
頑張ってみなさい
それでもどうしても
分からない所があったら
教えてあげ…

分からない所だらけ？



もしもし…葉？
どうしたのよ

…は？
夏休みの宿題？

名雪……
あなたまさか……

……夏休みだからって
毎日半日も寝てりや
なあ……昼間は部活も
やってたし

ゆ……祐……
宿題は……？

……そりやまあ一応は
終わらせてるけどさ

本当!?
じゃあ見せ……

基礎科目はともかく
選択科目は見せようがないだろ
結構別々に履修してたし

……!!

お願いだよ
だすげだよ
おねえちゃん



……仕方ないわね……
今から帰るから
とりあえず泣きやみなさい

うん……うん……じゃあ



ごめんなさい
聞いての通り妹の面倒を
見なきゃいけない……

ピッ



香里〜！
私もだすげで〜！

おはよう

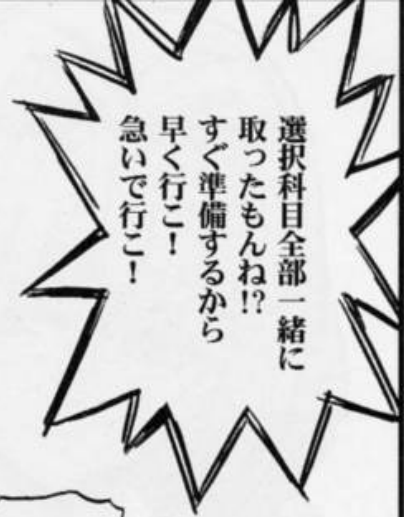
きゃっ!!
名雪!!
あんたもなの!!





ああもう……！
それじゃ秋子さん
お邪魔しまし……

行ってきまーす！



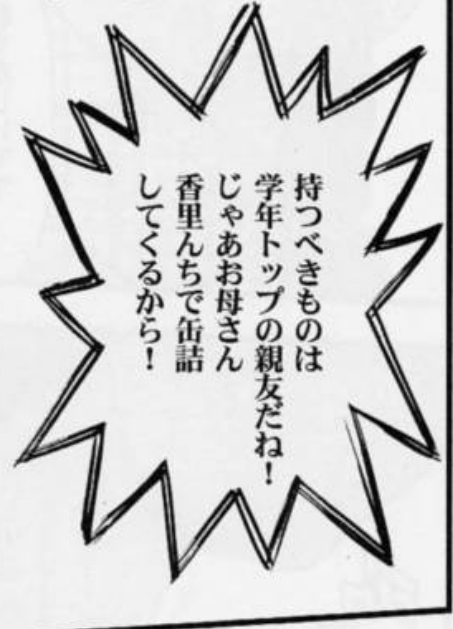
選択科目全部一緒に
取ったもんね!?
すぐ準備するから
早く行こ！
急いで行こ！

ちょ……だから
丸写しはダメって……！



御身

……さっさとさっさと……



持つべきものは
学年トップの親友だね！
じゃあお母さん
香里んちで街話
してくるから！



まああれだけ力いっぱい
遊んだツケなら名雪も
本望でしょう



くすっ……後で
香里ちゃんのお母さんに
お詫びとお願いの
電話をしておかないと

……たく……
しょうがないな
名雪は



そうですね
肩口の開いた服だと
水着跡が目立って
しまつて……少し
恥ずかしいです



それにしても……

こうして見ると
日焼け具合が改めて
分かりますね



……



祐一さん？

いえ……水着跡つて……



ゆ…祐一さん…
ダメ……

そういう場合は……



あ……

とても色っぽいと
思いますよ

ざわ……



水着跡……もつと
見たいです……



残念
キスマークの方は
消えちゃいましたね

ああ……



で……でも……
こんな所で……っ

それとも日焼けで
見えづらくなってる
だけかな？

ちゅっ

それじゃ……

秋子さんの部屋なら
いいですか……？

ん……♡
ちゅ……あ……♡

ほう……ん……♡



それにほら……

っっっっ



ああ……
隠してたはずの所が
逆に強調されて……

すいっくやうござす



ふあぁっ……♡

日焼けした肌の照り返しで
逆に肌の艶やかさが増して
見えて……

スルッ

や……そんな……
いやらしいだなんて……



ん……!

さあっ……

それは
祐一さんだって……



すごく興奮します

さあっ



濃くなった陰影が
しなやかな筋肉を
際立たせて……



あ……
秋子さん……

遅しさを……
祐一さんという『男』を
訴えかけてくる……



私という『女』を……
疼かせてくる……

れろぶっ

んむ…ん…♡
ちゅ…ちゅ…♡

ちゅぶっ

祐一さん…♡



すごく気持ち
いいです…っ!

ああうっ…!
秋子さん…
いっっ…

んっんっ♡

んっんっ♡

んっんっ♡

んっんっ♡



んあっ……
嬉しい……♡♡

もっと……もっと
気持ち良くなつて
ください……♡

ぐわ

ははは



くわっ……すごい……
秋子さんの大きくて
柔らかい胸が……
俺を包み込んで……!

ああっ……
日焼けした肌がいつもより
さらに熱を帯びてるように
感じて……すく……!

ぐわ

アアア

ぐわ



あん……祐一さんの……
こんなに大きく
硬くなって……♡

ニニニ

ニニニ



ふあ……♡
ゆういひひゃん……♡♡

ニョロ

ニョロ



だっ……だめですっ！
そんなイタズラ
しちゃ……

くわっ

くわっ



秋子さん……っ！

ひやう♡

ひやう♡



ゴゴゴ



あッあッ♡
だめ……ちからが
抜けちゃう……っ♡

やあッ♡
そんなにされたら
私……また……っ♡

ガクガク



秋子さんのも……
こんなに硬くなってますよ

ピピッ

だめッ…♡
だめえッ♡

あッ…♡
あッ…♡

や…そんな
恥ずかしい言い方…
祐一さん意地悪です…

ふふ…
秋子さんの方が先に
射精しちゃいましたね

すみません
だつて秋子さんが
可愛くて大好きだから

こんな風に……
歯止めが利かなくなつて
しまつてます

あ……んんッ……♡

こんな俺……
嫌いですか？

はう……
そんな言い方……
ずるいです……

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

んッ♡

んッ♡

んッ♡

……大好きです……♡

や…そんなに
吸……ッ♡

はあッ…♡
飲まれてる…
祐一さんに…
私のミルク……ッ♡

ゴクゴク

ゴクゴク

んはっ…飲むたびに
秋子さんの中が
キュウキュウと
締め付けて……

んむ…
ちゅっ…

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ゴクゴク

とてもじつとなんて
してられません……！

んめめめ♡

だって…だって…
祐一さんにこんなに
激しく求められたら…
こんなに深く愛されたら…

気持ちよすぎて…
幸せすぎて…
おかしくなっちゃう…ツ♡

……
ツ!

そっ…そんな事
言われたら…

あッ…

俺の方がおかしく
なっちゃいます…ツ!

んはあああッ♡



秋子さん…!

あつ

あひいッ♡

あッ…いっッ…♡



あッああッ♡

嬉しくて…
秋子さんをもっと
感じさせたくて…

興奮と欲望が
抑えられない…ッ!

あんッああん♡



ふあッあッ♡

NO

NO

NO



あッあッ♡
あッあッ♡

あッあッ♡
あッあッ♡



秋子さん……!
俺……もう……!

ひあああッ♡
祐一さん♡
私も…私もおッ♡

祐一さあん♡

イェイ♡
イェイ♡
イェイ♡





びん...

あ...熱いの...
いっぱい...♡

びん...

びん...

びん...
びん...



はあ...

はあ...

んん...

はあ...



祐一...さん...?



んん...♡



秋子さん...
ん...ちゅ...

あ...や...♡

祐一さんの…一度出したというのにまだこんなに硬いままで…♡

日焼けした秋子さんに…夏の思い出にもっと浸っていたいんです…ダメですか？

あの調子じゃおそろしく泊まり込みになりますよ

そうなると今日は二人きりで…誰に気兼ねする必要もなくて…

んふうっ…♡
で…でも名雪がいつ帰ってくるか…

あつ…奥…
そんなに優しく突いちゃ♡

クワッ
クワッ

私の中を押し広げて…私を求めてる…♡

そう考えたら俺…我慢なんて…!!

もっ…ずつと…
一日中でも秋子さんとこうしていたい…っ!

一回だけじゃ足りないって…
もっともつと私を貪りたいって…

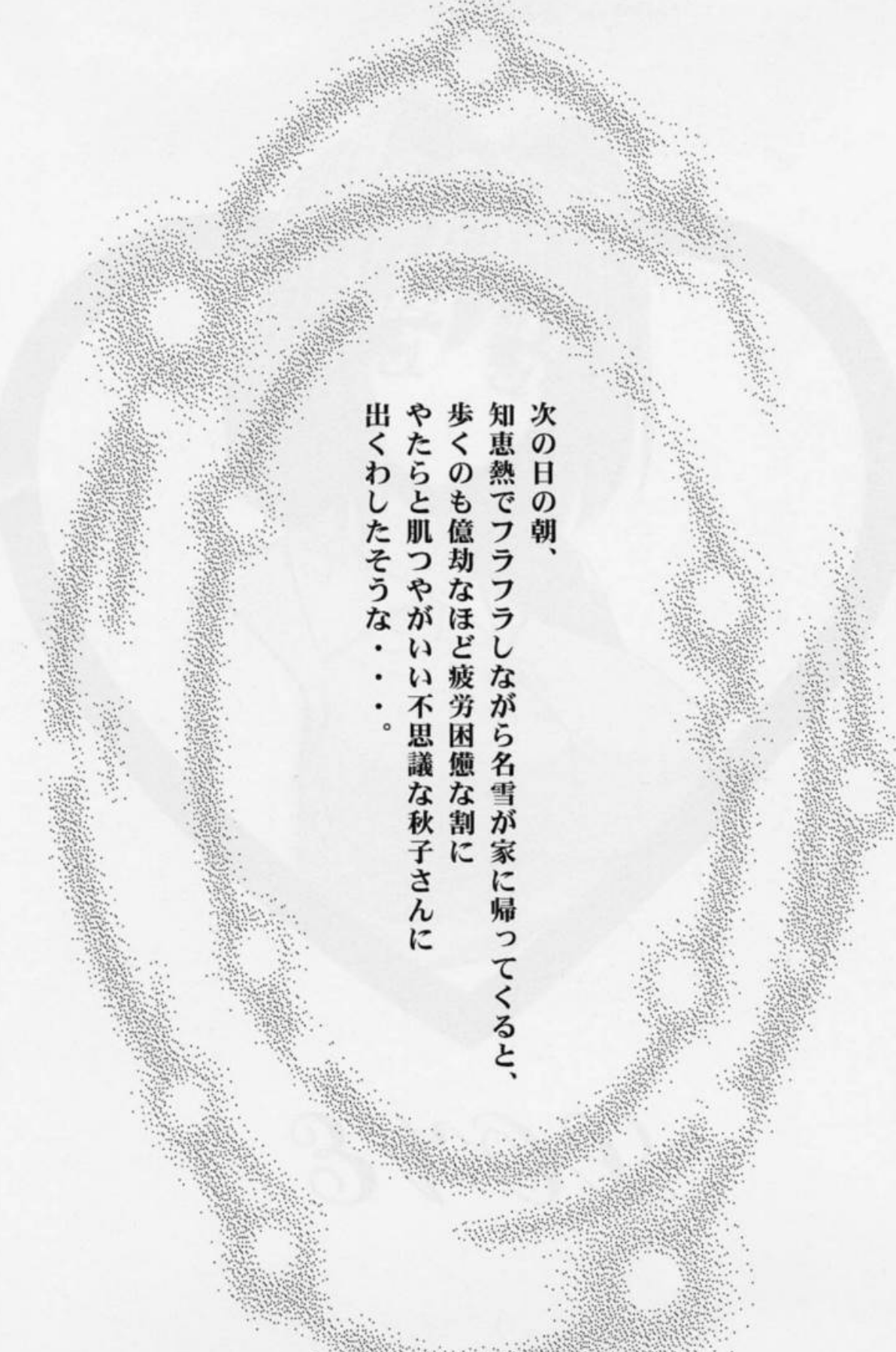
こんなにも私に…
欲情…してる…っ♡

一日中…っ♡

ダメ…ですか…?



…了承…です…♡



次の日の朝、
知恵熱でフラフラしながら名雪が家に帰ってくると、
歩くのも億劫なほど疲労困憊な割に
やたらと肌つやがいい不思議な秋子さんに
出くわしたそうなの。。。



LOVE

えー・・・すみません。また進行が滅茶苦茶になって、
中途半端な仕上がりのものでなくなってしまいました。
コレはひとえに僕の頑張りが足りなかったのが原因なのですが、
元から調子の良くなかったPCだけならまだしも、
締め切り直前でタブレットが全部使えなくなったのも
小さくない原因だと思います。

この機を計ったような嫌がらせは、もはや機械帝国の反乱と
言ってもいいでしょう。

やむにやまれず真夜中に作家友達の綾野なおとさんちに押しかけて
PCを液晶タブレットと一緒に借りて作業を続行し、何とか
このくらいまでに・・・

綾野さんマジ助かりました。

借しむらくは、タブレットの復旧に早々に見切りをつけて
さっさと綾野さんを頼ればよかったですね。

そうすればあの貴重な6時間が・・・っ。

いずれにしても次の作業開始までにPCの方を何とかしないと
いけませんね。

ところでどうでもいい話ですが、なんか僕が描いてる祐一って
回を重ねるごとにスケコマシ度が上がっていったような・・・。

嫉妬マンの癖に！

じゃじゃじゃじゃあ、また次の本で。

<発行者>
BLUE BLOOD

<発行日>
2012年4月30日

<印刷所>
(株) 高山 様

<URL>
<http://www.fsinet.or.jp/~b-blood/>

<e-mail>
b-blood@fsinet.or.jp

インターネット環境を含む
無断転載・無断複製
及び
18歳未満の購入・閲覧
を禁ず



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止